

「民謡ってなんだろう？」～ソーラン節を謡う～ 学習指導案

1. 題材名 民謡ってなんだろう？

～ソーラン節を謡う～

2. 対象 音楽I 1-3組 (40名)

3. 題材設定の理由

本題材「民謡ってなんだろう？」～ソーラン節を謡う～は、日本の伝統音楽の一つである民謡を、聴くだけではなく実際に表現を工夫して歌うことで、その魅力を感じ取って欲しい、という想いから組み立てを行った。

取り上げる楽曲は歌うことに焦点をあわせるため、誰も一度は耳にしたことのある、あるいは踊ったこともあるソーラン節を選定した。

題材の主軸としては、範唱を聴くことにより民謡特有の地声やこぶしを感じ取ること、ピアノを使わずに口伝で音取りを行っていくこと、またグループで歌うことなどを通じ、多くの音楽的、文化的特性を実感・共有し、「考えて歌う」場面が多く生まれることを第一に計画した。

この題材を終えた時、自国の伝統音楽の魅力を少しでも語れること、また世界の多様な音楽を捉える視点が広がったことを実感する生徒の姿を願い、本題材を設定した。

4. 題材の目標

- (1) 日本の民謡の音楽的な特性を知覚・感受し、意図をもって表現をする。
- (2) 他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてその良さや価値等を考えたりする。
- (3) 今後、「音や音楽と自分との関わり」を豊かに築いていけるよう、我が国の音楽文化についての理解を深める。

5. 学習指導要領の内容

- ①A 表現(1)歌唱ア：曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うこと。
- ②A 表現(1)歌唱イ：曲種に応じた発声の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。
- ③A 表現(1)歌唱エ：音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して歌うこと。

6. 指導計画(全4時間)

時	◇ねらい ・ 学習活動 ◆評価
1	◇日本の民謡の文化的背景を知り、ソーラン節の範唱を聴いて関心をもち歌唱をする。 ・民謡についての基礎的な知識を学習する。 ・民謡の特徴を理解し、範唱を聴き覚え、全員で民謡を斉唱する。
2	◇仲間と意見を出し合い、こぶしや地声の発声など民謡の特徴を感じ取り、表現を工夫する。 ・前時を振り返り、全員で斉唱する。 ・民謡の特徴を生かした歌い方をグループで考える。 ・グループで話し合いながら自分たちに合った音の高さ、テンポなどを設定し歌ってみる。 ◆ b. 観察
3 本時	◇他者の発表を聞き、民謡らしさについて考え、次回のテストに向け表現を深める。 ・ここまでの振り返りをし、本時と次時の発表にむけた創意工夫について話し合い、実践する。 ・グループごとに歌唱し発表する。(全員参加型) ・発表で得たことをまとめる。 ◆ a. 観察 b. 観察
4 本時	◇民謡についての知識、技能がどれくらい身についたかを実感し、この題材を通して学んだことを確認する。 ・別室でグループごと、一人ずつテストを行う。 ・今回の学習で得たこと、気づいたこと、自分の意識の変容などをまとめる。 ◆ a. ワークシート、 c. 演奏

7. 題材の評価規準

a. 音楽への関心・意欲・態度
①民謡の特徴に関心をもち、楽曲にふさわしい表現を工夫し、イメージをもって表現する学習に主体的に取り組もうとしている。
b. 音楽表現の創意工夫
①地声やこぶし(主に音色、旋律、強弱)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受して、音楽表現を工夫している。
c. 音楽表現の技能
①楽曲の曲想や歌詞の内容から表現したいイメージをもち、表現意図に合った歌唱表現する技能を身に付け、創造的に表している。
②地声やこぶしなど、楽曲にふさわしい歌唱表現をする技能を身に付け、創造的に表している。

8. 学習指導の展開(第3、4時)

(1) 本時の目標

第3時 他者の発表を聞き民謡らしさについて考え、次回のテストに向けた表現を深める。

第4時 民謡についての知識、技能がどれくらい身についたかを実感し、この題材を通して学んだことを確認する。

(2) 第3時の展開

指導内容	学習活動	◇指導上の留意点 ◆評価
1. 本時の流れの説明	・本時の目標を明確に伝え、確認する。	◇次の時間の個人発表を意識させつつ、表現を考えることに力を注ぐよう伝える。
2. 発声練習と斉唱	・全体で一度斉唱する。 ・技術面で気になる点を投げかけ、修正する。	◇全体発表への見通しをもたせる。 ◇あくまで技術面の投げかけとし、どう表現するかについては、このあとのグループワークで確認させる。
3. グループでの話し合い、練習	・グループで斉唱を行い、ワークシートに基づき、特に表現のポイント、工夫して表現したい点（キーの高さやこぶしの位置など）を確認し、技能を確かめながら、表現の修正をしていく。	◆評価規準 a-①、b-① 〈観察〉 ◇それぞれ考えた意見を出し合っているか確認し、斉唱をしつつ工夫していくように促していく。 ◇ワークシートへの書き込みの変更も促していく。
4. 全体発表	・グループ毎に発表する。（口三味線と掛け声は全員で行うものとする。） ・他のグループがどのような点に気をつけて斉唱をしようとしているのかを個人でまとめておく。	◆評価基準 b-① 〈観察〉 ◇気づいたことはワークシートへ記入し、個人発表へ活かせるように指示をする。 ◇個人発表へ向けて、人前で歌うことに慣れるようにも伝える。
5. グループでの話し合い、練習	・他のグループがどのような点に気をつけ、また工夫して斉唱していたのか共有する。	◇グループ内での意見交換を促す。
6. 本時の学習のまとめと次時の確認	・ワークシートに本時の学習のまとめと感想を書き、次時の課題を確認する。	◇次時の個人発表について把握しているか確認する。

(3) 第4時の展開

指導内容	学習活動	◇指導上の留意点 ◆評価
1. 個人発表	・グループで別の部屋へ集まり、一番、二番、三番を一人ずつ教員の前で発表する。	◆評価基準 c-①② 〈演奏〉 ◇発表前のグループは練習とし、発表後のグループは鑑賞のワークシートを完成させる。
2. まとめ	・全体で一度斉唱する。 ・ワークシートにまとめと感想を記入し、本題材のまとめとする。	◆評価基準 a-① 〈ワークシート〉